

はじめに

本年度の学校図書館支援事業は、平成26年12月2日をもって、県立学校9校延13回の全ての学校訪問が終了しました。学校訪問時には、図書館担当者からの具体的な質問や相談に応じたり、各校が希望されたテーマについて基本的な考え方や先進事例等を詳しく紹介したりすること、今後の取組の参考としていただくことができました。特に本年度は、事業実施校9校の関係者だけに止まらず、近隣の学校から13名(6校)の学校図書館担当者が見学され、大変参考になったと好評でした。これにより、各学校の現状について情報交換を行うこともできました。更に、この事業実施後にお尋ねのあった質問等についても、当館の司書がレファレンス(調査・相談)を行って回答し、学校図書館運営に役立てていただきました。12月に実施したアンケートでは、回答いただいた12校全校において「大変役に立った」とは「役に立った」と評価されるとともに、この事業以後「新たな取組」が行われていました。その中にはこの事業の成果や生徒と一緒に行った読書会の様子や図書館便りや学校のホームページに掲載された学校や、来年も是非「図書館事業」に申し込みます。」と言われた学校もありました。

事業実施後の学校関係者の感想やアンケートの結果等を踏まえ、一層充実した支援を行っていきたいと考えています。

広島県立図書館長

平成26年度学校図書館支援事業に関するアンケート結果から(平成26年12月実施)

Q: 具体的にどんな点が役に立ちましたか?

- A:
- 資料の整理や除籍 11校
「除籍の作業を担当だけで進めるのではなくて各教科と協力すること」
 - 図書館のレイアウトや館内整備 11校
「図書館のレイアウトや館内整備について具体的に意見を聞くことができた。」
 - 資料展示や本の紹介 5校
 - 資料の収集 5校
 - 読書行事 4校
 - 図書館運営上の課題や改善方法 3校
 - 利用指導 2校等

Q: この事業以後、新たに取組んだことは?

- A:
- 「資料の整理や除籍の計画」
 - 「指導・助言を参考にして図書館のレイアウトを変更した。」
 - 「図書館配置図を掲示した。」
 - 「教職員から推薦図書を募り、専用のコーナーを作り紹介した。」
 - 「掲示物の改善」
 - 「図書館便りの発行」
 - 「図書委員会活動の充実」
 - 「放送による昼休憩を利用した新刊図書紹介」
 - 「学校図書館支援事業記録の回覧」
 - 「移動図書館の利用」等

Q: 今年度の事業を参考にして、今後、実施してみたいと考えていることは?

- A:
- 「資料の整理や除籍」
 - 「レイアウトの変更、コーナーの設置、配架図の作成」
 - 「配架図どおりの配架を行う。」
 - 「児童生徒がどこに本を返すと良いか分かるように見出しを付ける。」
 - 「肢体不自由のある児童生徒が利用しやすい環境づくり」
 - 「資料展示や本の紹介」
 - 「教員対象のオリエンテーション」
 - 「教諭による読書座談会」
 - 「授業でのブックトーク」
 - 「総合的な学習の時間の社会参加デー(職場実習)における保育園で実習の生徒の読み聞かせ」等

県内高等学校での実践事例



自校で取組む際のポイント

- ***
入れる
無
理
な
く
継
続
で
き
る
や
り
方
を
取
り
入
れ
る
- 現状と課題を把握する
 - 教員や生徒のアイデアを活用する
 - 優先順位の高いものから実施する
 - 無理なく継続できるやり方を取り入れる

三原高等学校では図書の種類の見出しを細かく具体的に「何がどこにあるか」が大変分かりやすく自分の探す資料にたどりつくのに便利です。

庄原格致高等学校では図書館の入口に雑誌コーナーを設けて、木製の机と椅子を配置しています。気軽に入れてくつろげる雰囲気作りは大切です。

広島商業高等学校では「今週返却された本」のコーナーを設けています。他の人がどんな本を読んでいるかは、関心が高く利用も期待されます。また、廊下にウエルカムボードを設置して、本の紹介等をしていきます。

編集後記 学校図書館の担当者になった時、図書館運営についての方針やマニュアルが全く無いとともに、どこに何があるかも分からず「何から取り組んでよいか見当が付かなかった。」と言われた方が多くありました。担当者が代わる度に図書館運営が滞るようでは、学校における児童生徒の読書活動の推進は覚束ないでしょう。これまで取り組んだ内容や今後の方針・マニュアル等を、誰が見ても分かる形にして着実に引継いでいくことは、学校図書館の活性化を支える基本ではないでしょうか。(事業課)